

子どもの非認知能力を育む

科学に基づく 子育てのヒント





本市の子どもに関する取組について

尼崎市長 松本 眞



尼崎市長の松本です。

皆様はEBPMという言葉をご存じでしょうか。これは、様々な政策について、科学的根拠(エビデンス)に基づいて判断していこう、という考え方です。この考え方に基づき、平成29年から尼崎市では「尼崎市学びと育ち研究所」を設置しております。

本研究所では、数値で測ることのできるテストの点数といった「認知能力」だけでなく、数値化することが難しい「非認知能力」と言われる「やり抜く力」「自己肯定感」「コミュニケーション能力」等を身に付け、育んでいくために、様々なデータに基づき分析を行っています。

行政では、限られた人員や予算の中で、より効率的かつ効果的な施策を実施することが求められます。本研究所で行われている研究は、中長期的な時間を要するものであるため、まだまだ道半ばですが、エビデンスに基づいた信頼性の高い政策や実践を進めていくために、ぜひご理解、ご協力をお願いいたします。

今回、研究員の皆様のご協力を得て、ご家庭でのお子様との接し方について、より良い関わり方の事例をまとめさせていただきました。ここに記載されている内容は、すべて科学的根拠に基づく内容です。ぜひ、ご家庭でのお子様との関わり方の参考としていただき、子どもたちが健やかに、社会を生き抜いていける力を身に付ける一助としていただければ幸いです。



研究所の取組と非認知能力の重要性について

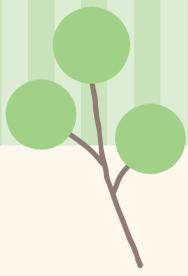
学びと育ち研究所 所長 大竹 文雄
(大阪大学特任教授)



教育の重要さは誰もが理解していると思います。人生を豊かに、健康に、幸せに生きていく上で、教育が果たす役割はとても大きいものです。教育が重要と言うと、学歴社会を想像されるかもしれませんが、学歴に代表される認知能力は、確かに高い所得と関係していることが、世界各国のデータから明らかにされています。しかし、所得だけでなく、健康面などにおいても、重要な役割を果たすのが、やりぬく力、忍耐力、協調性といった非認知能力であることも様々な研究で明らかにされてきました。しかも、こうした非認知能力は、生まれつきのものだけでなく、学校や家庭の教育でも育てられるのです。

学校現場では、認知能力や非認知能力を育てるために、様々な取り組みがなされてきました。ところが、そうした取組にどのような成果があったのか、今までは必ずしもはっきりとはわからなかったのです。尼崎市の「学びと育ち研究所」では、個人情報保護した上で、データ分析をして、教育の成果や教育における様々な課題を明らかにしています。その成果は、学校現場の教育を改善することに役立てられています。教育の成果は、今日頑張ればすぐに出てくるものではありませんが、子どもたちやご家庭のみなさん、学校の先生たちの努力は、間違いなく将来結果として表れます。研究所での取組が子どもたちの幸福に繋がるように研究を続けております。

非認知能力の育て方へのヒント



所長 大竹 文雄(大阪大学特任教授)

グリット(やりぬく力)の育て方

人生で成功するかどうかは、グリットと呼ばれるやりぬく力を持っているかどうかで予測できると言われています。では、グリットを育てることができるのでしょうか。トルコの小学校で大規模に行われた介入研究で、グリットは生まれつき変化しないものでなく柔軟に変化するもので、次の4つで育てられることが示されています。

1. 人の能力は生まれつき固定的でなく、変化するものだということを理解させること
2. 技能を高め、目標を達成するためには、努力が重要であることを教えること
…努力をして成長したことをほめてあげることが効果的です。
3. 失敗をよい意味に解釈することの重要性を教えること
…例えば、有名な科学者、芸術家、スポーツ選手が、成功するまで失敗や挫折を経験したのかを調べさせて、失敗を恐れず、簡単に諦めないことの大事さを教えます。
4. 目標を設定し、そのために何をしなければいいのか設定することの重要性を教えること
…大谷翔平選手も、8球団からドラフト1位指名を受けるという目標達成のために、今から何をしなければいいのか具体的に目標達成シートに書いていたそうです。

Alan, S., Boneva, T., Ertac, S. (2019). Q. J. Econ. 134, 1121-1162.

失敗した時に叱ると成長する？

子どもが成功したときにほめたほうが成長するのか、失敗したときに叱ったほうが成長するのかどちらだと思いますか？教師や親の多くは、失敗したときに叱ったほうが、効果的だと思っているのではないのでしょうか。それは、失敗したときに叱れば、次に上手くいくことが多く、成功したときにほめると次に失敗することが多いという経験則からそう考えがちなのです。しかし、心理学の研究では、成功したときにほめられるという報酬をもらったほうがより効果的だとされています。実は、成功したときにほめると次に失敗する可能性が高いというのは、ほめたことが原因ではなく、単に平均への回帰(成功と失敗の出現率)という統計的な特性を示しているだけなのです。

忙しかった日の子育て

ストレスがあった場合に子どもにきつくあたってしまうという経験をおもちではありませんか。これは、研究でも実証的に明らかにされています。普段はよいしつけの仕方をしていても、仕事が忙しかったときは、望ましくないしつけ方をしていたのです。私たちは、だれでもこのような傾向があることを自覚することが大事です。そうすれば、家に帰る前に、今日は疲れているから、子どもを叱ってしまう可能性があるということを想像しておくことができます。難しいことですが、自分がストレスを溜めると、子どもにも悪影響が出るということを理解しておく、自分のストレス管理に注意をするようになると思います。

Repetti, R.L. (2006). Social Development 3(1), 1-15.

- 🍀 グリット(やりぬく力)は生まれつきのものではなく、育てることができます。
- 🍀 失敗したときに叱るのではなく、成功したときにほめることが子どもの成長へ繋がります。
- 🍀 忙しかった日は誰も子どもにきつく当たる傾向があることを理解し、注意しましょう。

児童期の自尊心・自己肯定感を理解し、支える



主席研究員 藤澤 啓子(慶應義塾大学教授)

児童期からみられる自尊心や自己肯定感の低下

幼児期の子どもたちは、「わたし、これができる！」「ぼく、すごいんだ！」と万能感のかたまりのようです。このように自信に満ち何にでもチャレンジしていた子どもが、小学校の中学年を過ぎる頃から、自分に自信を持てなくなることがあります。自尊心や自己肯定感の高低には個人差がありますが、平均的には児童期中頃から思春期の頃にかけて低下がみられたのち成人期に回復し、そして高齢期に入るとまた低下していくという年齢的な変化のあることが報告されています。

児童期の認知発達との関連

児童期中頃から、複数の視点からものごとを考えることや、大人ほどではないにせよ、客観的、論理的に考えることができるといった認知発達上の変化がみられます。自分について考えるときに、客観的な見方やクラスメイトなど他者との比較をしながら考えるようになることで、幼児期に見られた過大に高い自己評価が修正され、「だめな自分」「できない自分」というとらえ方が生じやすくなることが考えられるのです。つまり、自尊心や自己肯定感の低下は認知能力が発達してきたからこそ生じる育ちの姿と理解できるかもしれません。

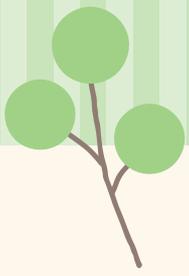
「こうなりたい」と「これでいいんだ」の両方を大切に

認知能力の発達を背景に、児童期の子どもたちは学力面や運動面、友達関係や性格といった複数の領域について自己評価をするようになっていきます。

周囲の大人は、子どもが何に自信をもち、何に苦手感をもっているのかをよく理解し、子どもが「だめな自分」に向き合い「こうなりたい自分」へと成長するプロセスを支えることが大切でしょう。一方で、だめなところ・嫌なところもあるけれど、良いところ・すごいところもある自分は「これでいい」のだと、子どもが自分の存在そのものを受け入れることもできるように導くことも大切です。

- ✿ 小学校の中学年頃から、自尊心や自己肯定感の低下がみられることがあります。
- ✿ 自尊心や自己肯定感の低下の背景には、自分を客観的に見たり、さまざまな領域からとらえたりすることができるようになる認知能力の発達が考えられます。
- ✿ 子どもが自信を持っていることや苦手を感じていることをよく理解し、子どもが自尊心や自己肯定感を保てるように支えることが大切です。

保育園通いは子どもの発達にプラス



主席研究員 山口 慎太郎(東京大学大学院教授)

「三歳児神話」って正しいの？

いまや保育園に通うことはすっかり当たり前になりました。厚生労働省の統計によると、1・2歳児の保育利用率は1997年には17%でしたが、2020年には50%を超えています。

一方で、子どもが3歳になるまでは母親が家庭で育てるべきといった、いわゆる三歳児神話は今でも一定の影響を持っているようです。実際、保育園を利用しているお母さんから、後ろ髪を引かれる思いをしているという声をしばしば耳にします。

保育園に子どもを通わせることは、子どもにとって本当に「かわいそう」なことなのでしょう。この疑問に答えるべく、厚生労働省の大規模調査である「二十一世紀出生児縦断調査」から得られたデータに基づいて、三歳児神話を科学的な手法で検証しました。

保育園通いで子どもの言語能力が向上

その結果、明らかになったのは、保育園通いは子どもの発達に好ましい影響を与えているという事実です。まず、保育園通いにより、2歳時点での子どもたちの言語能力が向上していることがわかりました。保育園に通うことで、家族以外の大人や子どもたちと日常的に接するのだから、多くの言葉の刺激を受け取ることになります。その結果、言語能力が向上するのでしょう。

落ち着きが出て、行動面にも好ましい影響

また、子どもたちの行動面についても好ましい影響があることがわかりました。注目したのは多動性と攻撃性です。多動性とは、要は落ち着きがあるかどうかです。落ち着いて人の話を聞くことができなければ学習がスムーズに進まなくなってしまいます。攻撃性は他の人をたたいてしまったり、物を壊してしまったりしないかということを示しています。攻撃性が高いと集団の中でうまく生きていくことができません。

困難な状況にある家庭に育つ子どもたちは、こうした点について問題を抱えていることが少なくないのですが、保育園通いのおかげで落ち着きが出て、他の子をたたいたり、物にあたったりすることが減ることが明らかになりました。三つ子の魂百までという言葉によく表れているように、幼児期の気質は大人になっても続いていく傾向があることが知られています。幼児期に行動面を改善しておけば、その後の長い人生において大きなプラスになるわけです。

- ❀ 「三歳児神話」は正しくない！ 保育園でも子どもはちゃんと育ちます。
- ❀ 保育園通いでは、家族以外の多くの人と接するので言語能力が向上します。
- ❀ 困難な状況にある家庭に育つ子どもたちの行動面は、保育園通いで大きく改善。その後の長い人生において大きなプラスになります。

教育環境が学力に与える影響

大竹 文雄 所長
(大阪大学特任教授)



研究内容

子どもが育った環境や学校の状況などの教育環境が、「学力」や「非認知能力」に与える影響について分析する。

アドバイス

新型コロナウイルス感染症対策で、学校の休校や学級閉鎖が行われてきました。学校があれば、子どもたちの生活リズムは作られやすく、勉強時間も確保しやすいものです。しかし、学校が休みになると、リズムが崩れやすくなります。休み中は特に、ご家庭での勉強や生活が大切になります。その影響は意外に長く続き、子どもたちの人生にも影響する可能性があります。ご家庭で気をつけてあげることが大切です。

非認知的能力の育ちを捉え育む 乳幼児教育・接続期教育の開発

北野 幸子 主席研究員
(神戸大学大学院教授)



研究内容

乳幼児期の社会情動的育ちを支える保育実践を支援し、幼児教育と小学校教育との架け橋期の教育の充実を図る。

アドバイス

私は、乳幼児教育・保育学を専門としています。乳幼児期の教育は、人格形成の基礎を培うもので、その方法は、小学校以降の教科主義教育とは異なり、独自のものです。その充実を図り、小学校教育と繋ぐことが私たちの研究の目標です。自己中心性が高い幼児期には、子ども自らの思い(好奇心、探求心、あこがれ等)を育ちと学びの起点とし、また感覚器がとても敏感であるこの時期だからこそ五感を大いに活用した、豊かな経験を大切にしていきたいと思います。

周産期から幼児期までの状況が 発達や学力の向上に与える影響

永瀬 裕朗 主席研究員
(神戸大学大学院特命教授)



研究内容

周産期から幼児期までの児童に対し、どのような関わり方がその後のより良い発達や成長につながるのかを検証する。

アドバイス

私は子どもの神経と発達を専門としています。診察場で保護者の方からしばしば尋ねられる、「どのような関わりが、後の発達と関連するのか？」という疑問に対するヒントを探したいとの思いから研究員として参加させていただいています。これまでの研究で3歳時の就寝時刻が早いほど、学齢期には学力が高く、勤勉になり、人に対する思いやりが高いことがわかりました。「寝る子は育つ」のです。小さなお子さんの子育て中の皆さんには、早寝を意識してみることをお勧めします。

尼っこ健診・生活習慣病予防コホート研究

野口 緑 主席研究員
(大阪大学大学院特任准教授)



研究内容

11歳、14歳が対象の「尼っこ健診」を分析し、生活習慣とその後の健康状態の相関を調べ、生活習慣病の予防を図る。

アドバイス

出生体重の大小には妊娠中のお母さんの体重増加の過剰、適正範囲、過少が関係していて、お母さんが目標範囲に体重を増加させることは、学童期、思春期の標準的な体格をつくることにつながる可能性があります。また、子どもの肥満には、学校外での1日2時間未満の身体活動と夜10時以降の就寝が関係していました。毎日しっかり体を動かすこと、早寝早起きが肥満を防ぐことにつながりそうです。

所の研究紹介!

学習や学校生活における困難を改善する 指導に関する実践研究

中尾 繁樹 主席研究員
(関西国際大学教授)



研究内容

身体づくりが学力向上と連動していることから、子どもが困難を感じる原因を探り、改善のための運動プログラムを開発する。

アドバイス

私は特別支援教育を専門にしています。特別支援というと「配慮が必要な子ども」のことかと思われるかもしれませんが、私は、「全ての子どもに適切な配慮が必要」と考えています。

私の研究では、運動プログラムを実践することで、姿勢を支える筋力が付き、不器用さが解消され、学力にもいい影響を与える、という結果が出ています。

適度な運動は学力の発達も促します。ぜひ、運動をする機会を保護者が意識して作ってあげてください。

就学前教育の質が就学後の 学力や健康に与える影響

藤澤 啓子 主席研究員
(慶應義塾大学教授)

研究内容

子どもたちが適応的な学校生活を過ごすことができるために、就学前にできる支援のポイントや支援のあり方を検討する。

アドバイス

子育てや子どもの成長のことで、不安や心配なことがあるとき、誰かに相談しますか。インターネットで情報を調べることができるのに、わざわざ行政の人に相談に行くのは敷居が高いと感じる方は多いかもしれません。でも乳幼児健診や歯科健診、予防接種に行ってみて、ついでに少し相談してみるというのはいかがでしょうか。健診の場は専門家と気軽に相談できる良い機会です。

ヤングケアラーの実態調査と 課題解決に向けた手法の検討

濱島 淑恵 主席研究員
(大阪歯科大学教授)



研究内容

ヤングケアラー(家族のケアを担う子ども)のケアの状況と学校生活、人間関係、健康面との関連を分析する。

アドバイス

ヤングケアラーとは、障害、病気等の理由でケアが必要な家族がいるために、家事、介護、育児、感情面のサポート、通訳等のケアを担っている子どものことを言います。

ケアのために遅刻、欠席が増える、勉強できない、健康状態が悪化する等の可能性があります。特に孤立・孤独は深刻です。周りにヤングケアラーがいたら、その頑張りをほめ、不安やしんどいことを聞き、良き理解者になってください。

尼崎市における無園児の状況調査及び 就学後の影響に関する調査研究

山口 慎太郎 主席研究員
(東京大学大学院教授)



研究内容

保育園等の就学前教育施設に通っていない、いわゆる「無園児」について、就学後の影響を分析し、無園を解消する手法を検討する。

アドバイス

同じ学年の小学生であっても心身の発達には大きく個人差があります。特に、相対的に年少(早生まれ)の子どもは学力でも体力でも遅れを取っているように見えることがあるかもしれません。大切なのは他の子どもと比べて判断しないこと。これまでできなかったことができるようになったかなど、本人にとっての成長にこそ注目しましょう。保護者の方が焦らないことが大切です。

🌸 尼崎市学びと育ち研究所

尼崎市では、子ども一人ひとりの状況に応じ、学力、豊かな人間性、生活習慣など、実社会を主体的に生きていくために必要な力を伸ばしていくため、外部の研究者を迎えた「尼崎市学びと育ち研究所」を設置しています。

学びと育ち研究所では、市や教育委員会が保有するデータを分析し、中長期的な効果測定を通じた、科学的根拠(エビデンス)に基づく先進研究を行っています。

🌸 尼崎市学びと育ち研究所倫理委員会

尼崎市では、学びと育ち研究所での研究内容や活用するデータについて審査を行うため、学びと育ち研究所倫理委員会を設置しています。

倫理委員会では、個人情報の取り扱いや研究内容に倫理的な問題が無いかを審議し、研究の実施および研究者へのデータ提供の可否を決定しています。

なお、研究に使用するデータは個人情報をすべて削除しているほか、地域や施設名等もすべて特定できない状態に加工し、分析を行っています。

🌸 外部アドバイザー

学びと育ち研究所では、倫理委員会での審査を行う際に、第三者の視点から指導、助言を得るため、教育、法律、倫理、それぞれの分野の専門家に、アドバイザーに就任していただいています。

【教育】 川上 泰彦 教授 (兵庫教育大学大学院 学校教育研究科)

【法律】 曾我 智史 弁護士(尼崎駅前法律事務所)

【倫理】 苫野 一徳 准教授(熊本大学 教育学部)



🌸 個人情報保護制度について

尼崎市の個人情報保護制度は、個人情報保護の取扱いについて必要な事項を定めるとともに、市が保有する個人情報の開示、訂正及び利用停止を求める権利を明らかにすることにより、市政の適正かつ円滑な運営を図りつつ、個人の権利利益を保護することを目的とした条例に基づき運用しています。

🌸 個人情報の取り扱いについて

尼崎市学びと育ち研究所では、保有する個人情報の管理については、尼崎市個人情報保護条例ほか、各法令に基づき万全を期して取り扱っておりますが、保有する個人情報について、ご本人またはその保護者からの申請があれば、学びと育ち研究所が保有するデータから削除する制度を設けています。

個人情報の削除を希望する方は、市ホームページで手続きについてご確認いただくか、尼崎市学びと育ち研究所へお問い合わせください。

(※令和5年4月1日以降は個人情報の保護に関する法律が施行され、全国共通のルールが適用されることから、尼崎市個人情報保護条例を廃止するとともに、新たに尼崎市個人情報の保護に関する法律施行条例を施行します。)

【発行・問い合わせ先】 尼崎市学びと育ち研究所(こども青少年課)

〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺2丁目18番5号 あまがさき・ひと咲きプラザ アマブラリ3階

電話番号: 06-6409-4761 ファックス番号: 06-4950-0173

メールアドレス: ama-msk@city.amagasaki.hyogo.jp



令和5年3月発行